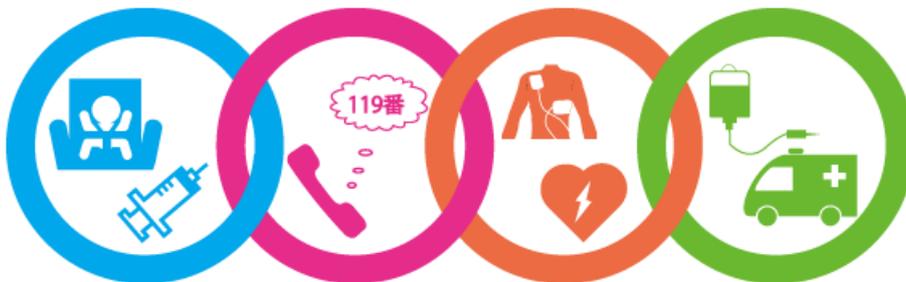


北見地区消防組合

令和2年救急統計



令和2年度作成、応急手当普及啓発ロールアップバナー



目 次

1、救急搬送の出動状況（出動件数、搬送人員の推移）	・・・ P1～2
2、地区別救急隊出動件数	・・・ P2～3
3、救急搬送の状況（活動時間の推移）	・・・ P4
4、傷病者年齢区分別搬送人員状況	・・・ P5～6
5、傷病程度別搬送人員状況	・・・ P7
6、急病に係る疾病分類項目別搬送人員状況	・・・ P8～9
7、急病に係る疾病分類項目別重症割合	・・・ P9
8、医療機関別搬送人員の状況及び管外搬送状況	・・・ P10～12
9、病院問合せ回数	・・・ P12
10、心肺停止傷病者搬送人員、社会復帰状況	・・・ P13
11、三次医療機関への搬送状況	・・・ P14
12、特定行為等の実施状況	・・・ P15
13、救命講習実施状況	・・・ P16
14、市民による応急手当実施状況	・・・ P17
15、口頭指導による応急手当実施不可理由	・・・ P18
16、周産期救急の出動状況	・・・ P19～20
17、ドクターカー出動状況	・・・ P20

1、救急搬送の出動状況（出動件数、搬送人員の推移）

令和2年中の救急出動件数は5,496件で前年比-8.9%(-534件)減少し、搬送人員は5,100人で前年比-7.0%(-384人)減少している。(図1-1、表1-1、表1-2)

図1-1 救急件数の推移（北見地区）

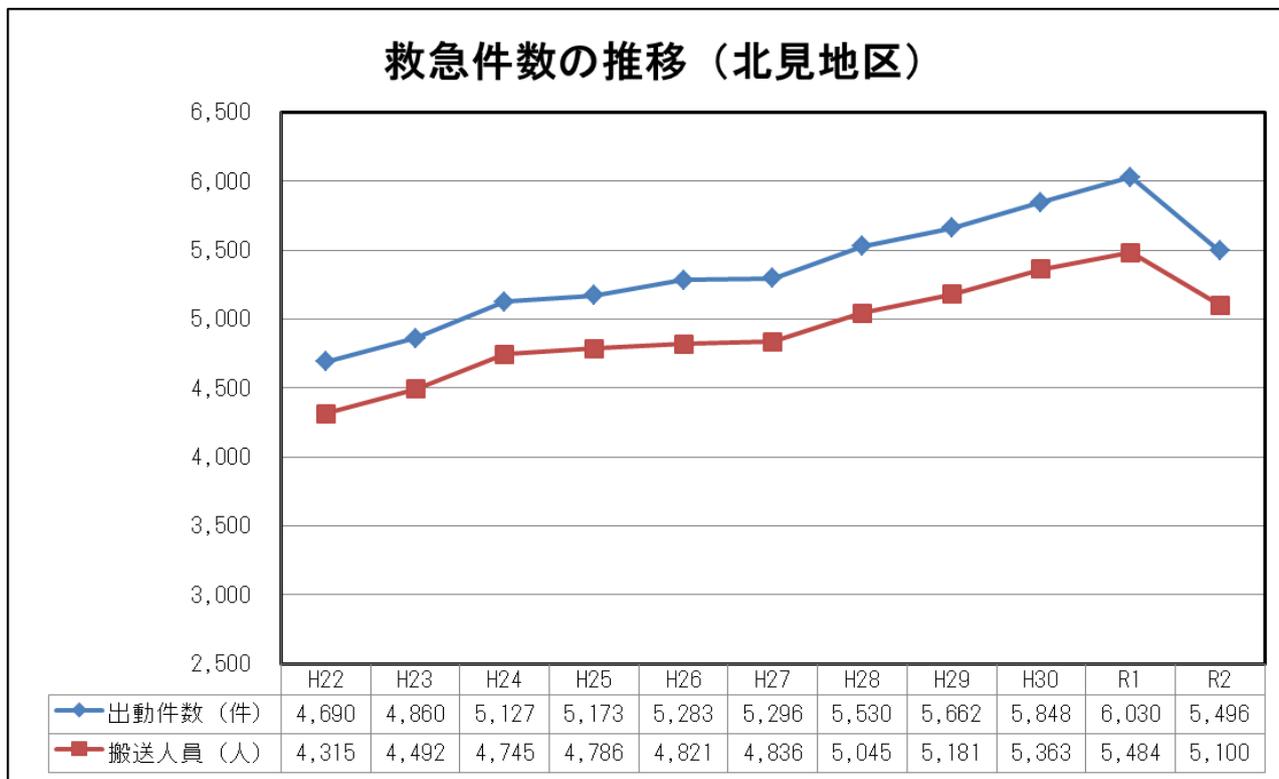


表1-1 年別出動件数内訳

	署	西	東	南	端野	常呂	留辺蘂	本部	北見合計	置戸	訓子府	支署合計	組合合計	前年比
2007 (H19)	1,848	1,202	22	2	470	199	364		4,107	163	214	377	4,484	27 0.6%
2008 (H20)	1,729	1,207	18	0	470	215	350		3,989	145	173	318	4,307	-177 -3.9%
2009 (H21)	1,831	1,243	10	4	438	181	320		4,027	159	205	364	4,391	84 2.0%
2010 (H22)	1,926	1,361	15	4	490	177	353		4,326	168	196	364	4,690	299 6.8%
2011 (H23)	1,919	1,404	16	8	554	185	356		4,442	210	208	418	4,860	170 3.6%
2012 (H24)	2,028	1,548	27	7	607	185	378		4,780	158	189	347	5,127	267 5.5%
2013 (H25)	2,085	1,500	28	8	579	191	419	12	4,822	146	205	351	5,173	46 0.9%
2014 (H26)	2,155	1,562	18	8	596	164	399	13	4,915	152	216	368	5,283	110 2.1%
2015 (H27)	1,818	1,444	654	7	363	197	426	21	4,930	160	206	366	5,296	13 0.2%
2016 (H28)	1,788	1,432	997	9	340	172	379	13	5,130	172	228	400	5,530	234 4.4%
2017 (H29)	1,832	1,567	957	12	337	181	378	18	5,282	182	198	380	5,662	132 2.4%
2018 (H30)	1,919	1,553	1,022	13	343	172	431	18	5,471	160	217	377	5,848	186 3.3%
2019 (R1)	1,891	1,595	1,148	19	341	184	430	20	5,628	179	223	402	6,030	182 3.1%
2020 (R2)	1,741	1,485	987	15	299	189	393	22	5,131	146	219	365	5,496	-534 -8.9%

表 1-2 年別搬送人員内訳

	署	西	東	南	端野	常呂	留辺蘂	本部	北見合計	置戸	訓子府	支署合計	合計	前年比	
2007 (H19)	1,692	1,155	9	2	454	201	335		3,848	159	211	370	4,218	76	1.8%
2008 (H20)	1,573	1,155	11	0	435	215	334		3,723	139	166	305	4,028	-190	-4.5%
2009 (H21)	1,666	1,153	3	3	411	168	296		3,700	150	201	351	4,051	23	0.6%
2010 (H22)	1,706	1,281	6	4	467	166	339		3,969	167	179	346	4,315	264	6.5%
2011 (H23)	1,750	1,304	7	8	510	180	332		4,091	202	199	401	4,492	177	4.1%
2012 (H24)	1,861	1,435	18	7	554	178	359		4,412	154	179	333	4,745	253	5.6%
2013 (H25)	1,884	1,438	16	7	530	187	393	7	4,462	140	184	324	4,786	41	0.9%
2014 (H26)	1,921	1,451	7	5	551	156	367	13	4,471	149	201	350	4,821	35	0.7%
2015 (H27)	1,633	1,324	595	6	335	179	406	15	4,493	154	189	343	4,836	15	0.3%
2016 (H28)	1,618	1,335	884	7	313	156	349	10	4,672	161	212	373	5,045	209	4.3%
2017 (H29)	1,645	1,479	856	8	314	163	344	11	4,820	175	186	361	5,181	136	2.7%
2018 (H30)	1,746	1,454	921	9	312	162	400	16	5,020	149	194	343	5,363	182	3.5%
2019 (R1)	1,736	1,439	1047	13	314	164	388	17	5,118	163	203	366	5,484	121	2.3%
2020 (R2)	1,631	1,370	922	14	275	181	355	20	4,768	139	193	332	5,100	-384	-7.0%

2、地区別救急隊出動件数

令和2年中の地区別救急隊出動件数をみると、北見は前年比-8.8%減の5,131件、置戸は前年比-18.4%減の146件、訓子府は前年比-1.8%減の219件となっている。(表2-1)

自治区別救急隊出動件数では、北見が前年比-9.1%減の4,250件、端野が前年比-12.3%減の299件、常呂は前年比2.7%増の189件、留辺蘂は前年比-8.6%減の393件となっている。(表2-2)

事故種別割合は、急病(64.2%)による救急出動が大半を占め、一般負傷(13.4%)、転院搬送(10.3%)、交通(5.0%)となっている。(図2-1)

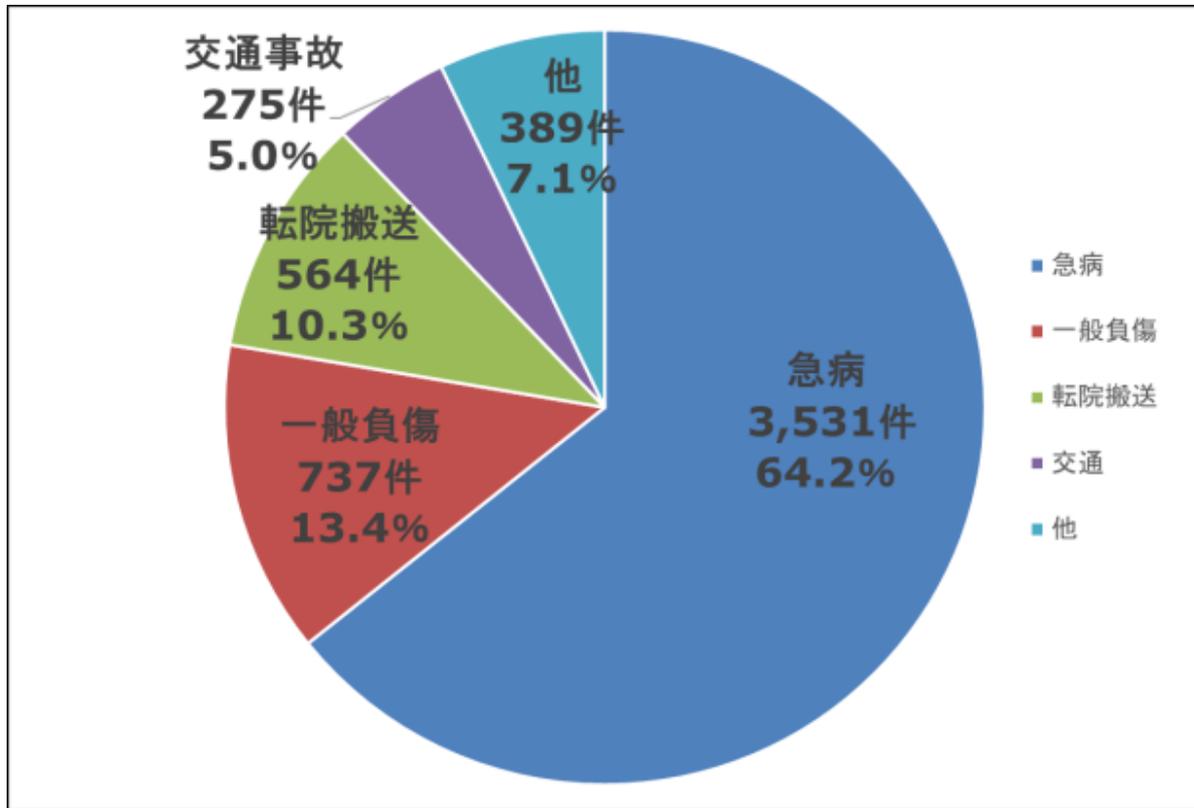
表 2-1 地区別救急隊出動件数

地区別	事故種別	火	自	水	交	労	運	一	加	自	急	転	医	資	そ	計
		災	然	難	通	働	動	般	害	損	病	院	師	機	の	
合	出動件数	50	0	4	275	74	27	737	13	81	3,531	564	2	0	138	5,496
	増減数	3	0	3	△17	3	△28	△30	△2	1	△381	△7	△2	0	△77	△534
	搬送人員	12	0	2	242	74	28	701	12	59	3,409	560	0	0	1	5,100
計	出動件数	49	0	4	259	59	25	685	13	78	3,317	518	2	0	122	5,131
	増減数	9	0	3	△19	3	△25	△37	△2	2	△355	1	△2	0	△75	△497
	搬送人員	12	0	2	230	58	25	654	12	58	3,203	514	0	0	0	4,768
北	出動件数	7	0	1	△8	6	△27	△29	△1	△2	△325	△7	0	0	1	△384
	増減数	9	0	3	△19	3	△25	△37	△2	2	△355	1	△2	0	△75	△497
	搬送人員	12	0	2	230	58	25	654	12	58	3,203	514	0	0	0	4,768
見	出動件数	7	0	1	△8	5	△25	△32	△1	△1	△296	0	0	0	0	△350
	増減数	△1	0	0	△1	△2	△1	△4	0	△2	△12	△9	0	0	△1	△33
	搬送人員	0	0	0	2	1	3	12	0	0	76	45	0	0	0	139
置	出動件数	0	0	0	△1	△2	0	△3	0	△1	△9	△8	0	0	0	△24
	増減数	0	0	0	△1	△2	0	△3	0	△1	△9	△8	0	0	0	△24
	搬送人員	0	0	0	10	15	0	35	0	1	130	1	0	0	1	193
戸	出動件数	0	0	0	1	3	△2	6	0	0	△20	1	0	0	1	△10
	増減数	0	0	0	1	3	△2	6	0	0	△20	1	0	0	1	△10
	搬送人員	0	0	0	1	3	△2	6	0	0	△20	1	0	0	1	△10
訓	出動件数	0	0	0	12	14	0	40	0	3	137	1	0	0	12	219
	増減数	△5	0	0	3	2	△2	11	0	1	△14	1	0	0	△1	△4
	搬送人員	0	0	0	10	15	0	35	0	1	130	1	0	0	1	193
子	出動件数	0	0	0	1	3	△2	6	0	0	△20	1	0	0	1	△10
	増減数	0	0	0	1	3	△2	6	0	0	△20	1	0	0	1	△10
	搬送人員	0	0	0	1	3	△2	6	0	0	△20	1	0	0	1	△10
府	出動件数	0	0	0	1	3	△2	6	0	0	△20	1	0	0	1	△10
	増減数	0	0	0	1	3	△2	6	0	0	△20	1	0	0	1	△10
	搬送人員	0	0	0	1	3	△2	6	0	0	△20	1	0	0	1	△10

表 2-2 自治区別救急隊出動件数

地区別	事故種別	火	自然	水	交	労	運	一	加	自	急	転	医	資	そ	計
		災	災	難	通	働	動	般	害	損	病	院	師	機	の	
北	出動件数	37	0	1	203	40	20	581	12	66	2,771	412	2	0	105	4,250
	増減数	9	0	1	△ 14	5	△ 15	△ 37	△ 1	0	△ 327	9	△ 2	0	△ 51	△ 423
	搬送人員	12	0	0	175	39	20	557	11	53	2,680	410	0	0	0	3,957
見	出動件数	0	0	1	△ 4	7	△ 15	△ 28	△ 1	0	△ 271	8	0	0	0	△ 295
	増減数	9	0	0	△ 4	7	△ 15	△ 28	△ 1	0	△ 271	8	0	0	0	△ 295
	搬送人員	0	0	1	30	9	4	30	0	6	154	62	0	0	3	299
野	出動件数	△ 1	0	1	△ 7	5	△ 4	1	△ 1	0	△ 32	2	0	0	△ 6	△ 42
	増減数	0	0	1	△ 13	5	△ 4	△ 2	0	△ 2	△ 27	3	0	0	0	△ 39
	搬送人員	0	0	1	26	9	4	26	0	3	145	61	0	0	0	275
常	出動件数	0	0	1	△ 13	5	△ 4	△ 2	0	△ 2	△ 27	3	0	0	0	△ 39
	増減数	4	0	2	13	6	0	20	0	1	115	21	0	0	7	189
	搬送人員	0	0	1	4	△ 4	△ 4	7	0	△ 1	8	△ 1	0	0	△ 5	5
呂	出動件数	0	0	1	18	6	0	20	0	1	114	21	0	0	0	181
	増減数	0	0	0	9	△ 4	△ 4	7	0	1	9	△ 1	0	0	0	17
	搬送人員	0	0	0	13	4	1	54	1	5	277	23	0	0	7	393
留	出動件数	8	0	0	△ 2	△ 3	△ 2	△ 8	0	3	△ 4	△ 9	0	0	△ 13	△ 37
	増減数	1	0	0	△ 2	△ 3	△ 2	△ 8	0	3	△ 4	△ 9	0	0	△ 13	△ 37
	搬送人員	0	0	0	11	4	1	51	1	1	264	22	0	0	0	355
美	出動件数	△ 2	0	0	0	△ 3	△ 2	△ 9	0	0	△ 7	△ 10	0	0	0	△ 33
	増減数	△ 2	0	0	0	△ 3	△ 2	△ 9	0	0	△ 7	△ 10	0	0	0	△ 33

図 2-1 事故種別出動割合



3、救急搬送の状況（活動時間の推移）

令和2年中の現場到着までの平均時間は7.5分、病院収容までの平均時間は34.5分であった。（図3-1、表3-1）

図3-1 活動時間の推移

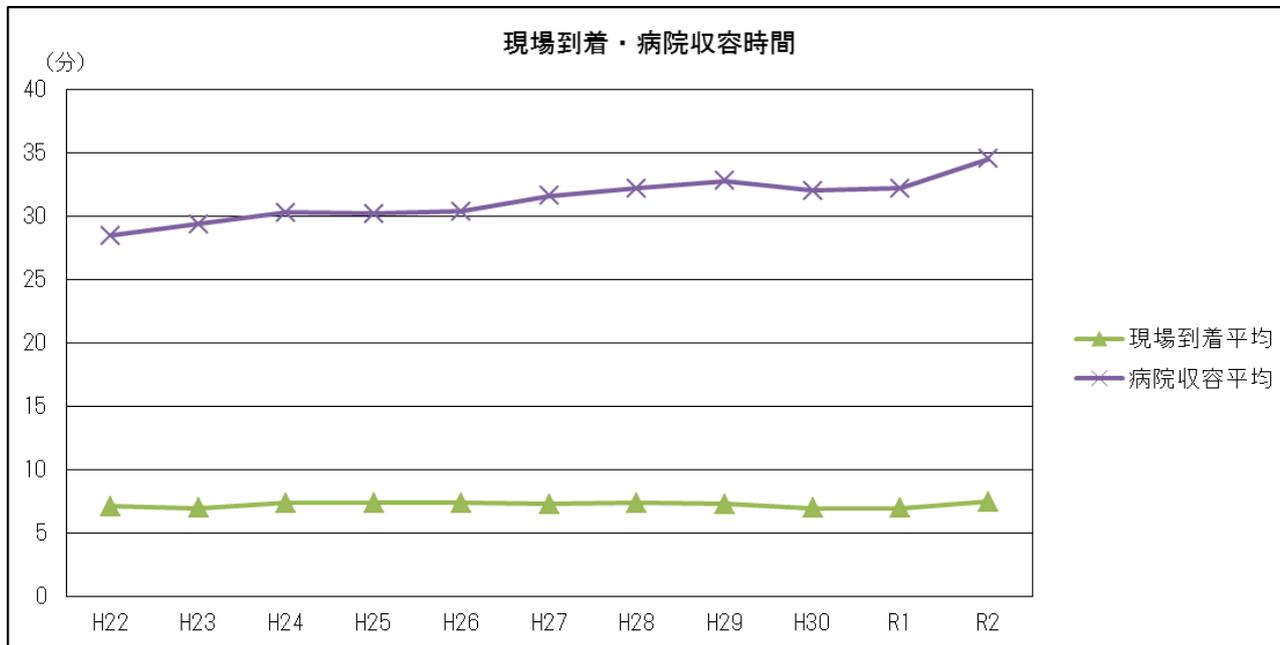


表3-1 過去5年間の活動時間の推移(分)

項目	年				
	H28	H29	H30	R1	R2
現場到着平均時間 (分)	7.4分	7.3分	7.0分	7.0分	7.5分
病院収容平均時間 (分)	32.2分	32.8分	32.0分	32.2分	34.5分

4、傷病者年齢区分別搬送人員状況

令和2年中の搬送人員 5,100 人に対し、年齢区分における高齢者（65 歳以上）の搬送人員は 3,482 人となり、全体の 68.3%を占めている。（表 4-1、図 4-1）

高齢化率上昇に伴い高齢者搬送人員は年々増加していたが、新型コロナウイルス感染症の影響があったものと推測され令和2年は減少に転じた。このうち 2 回以上搬送されている高齢者の数は 421 人で延べ出動件数は 945 件となっている。（表 4-2、図 4-2、図 4-3）

表 4-1 年齢区分別搬送種別状況

事故種別	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	その他	計
新生児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	11
乳幼児	0	0	0	9	0	0	47	0	0	62	5	0	123
少年	0	0	0	17	0	19	18	1	1	46	5	0	107
成人	10	0	1	132	56	7	93	6	48	891	133	0	1,377
高齢者 (後期高齢者)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	84 (46)	18 (7)	2 (2)	543 (425)	5 (2)	10 (7)	2,410 (1778)	406 (300)	1 (1)	3,482 (2,571)
計	12	0	2	242	74	28	701	12	59	3,409	560	1	5,100

【年齢分類】

- 新生児＝生後28日未満
- 乳幼児＝28日以上7歳未満
- 少年＝7歳以上18歳未満
- 成人＝18歳以上65歳未満
- 高齢者＝65歳以上
- 後期高齢者＝高齢者のうち75歳以上

図 4-1 傷病者年齢区分別搬送人員状況

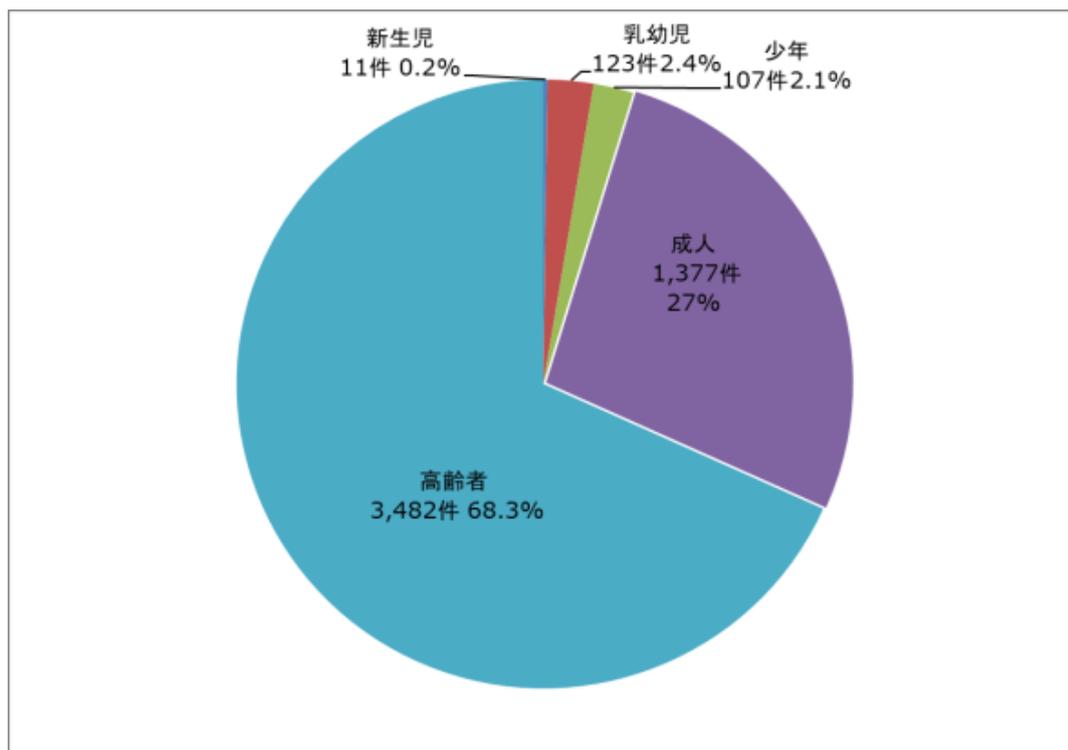
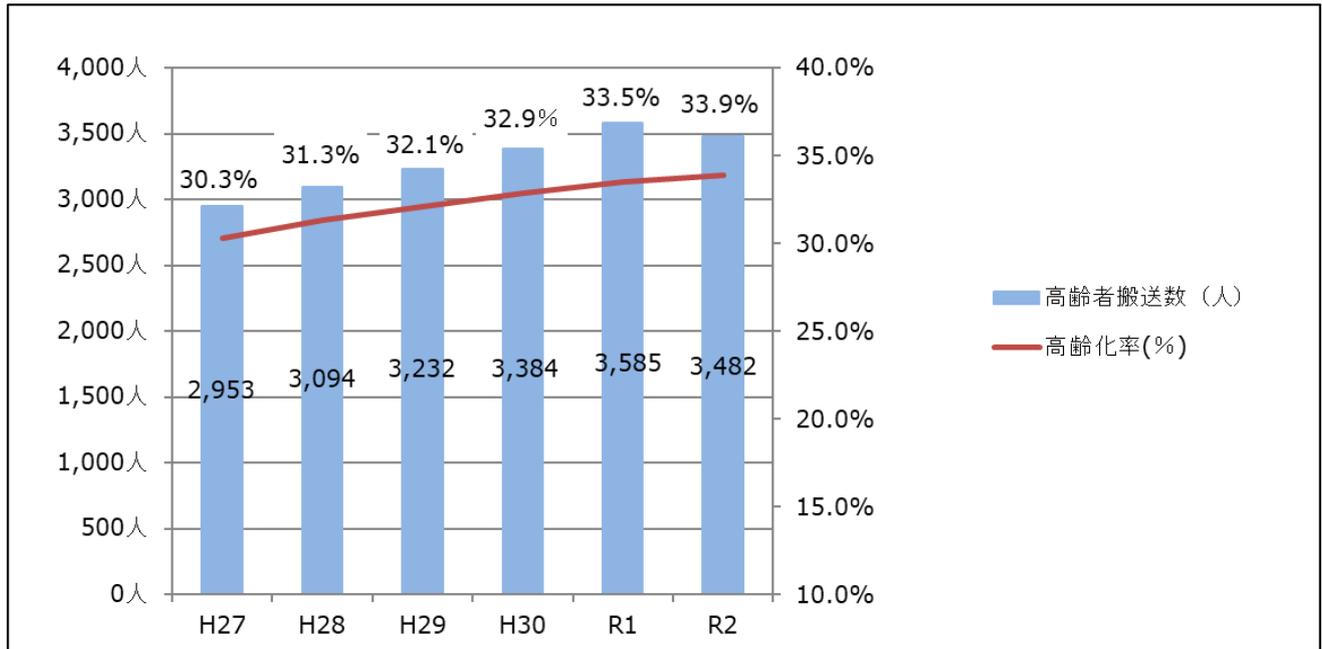


表 4-2 高齢者搬送人員状況

項目	年	H27		H28		H29		H30		R1		R2	
		搬送人員	増減数	搬送人員	増減数	搬送人員	増減数	搬送人員	増減数	搬送人員	増減数	搬送人員	増減数
急病		2,007	△ 25	2,147	140	2,259	112	2,312	53	2,542	230	2,410	△ 132
一般		460	33	463	3	503	40	541	38	527	△ 14	543	16
交通		84	5	95	11	83	△ 12	89	6	71	△ 18	84	13
他		402	18	389	△ 13	387	△ 2	442	55	445	3	445	0
計		2,953	31	3,094	141	3,232	138	3,384	152	3,585	201	3,482	△ 103
うち老健施設から		400		421	21	425	4	465	40	473	8	557	84

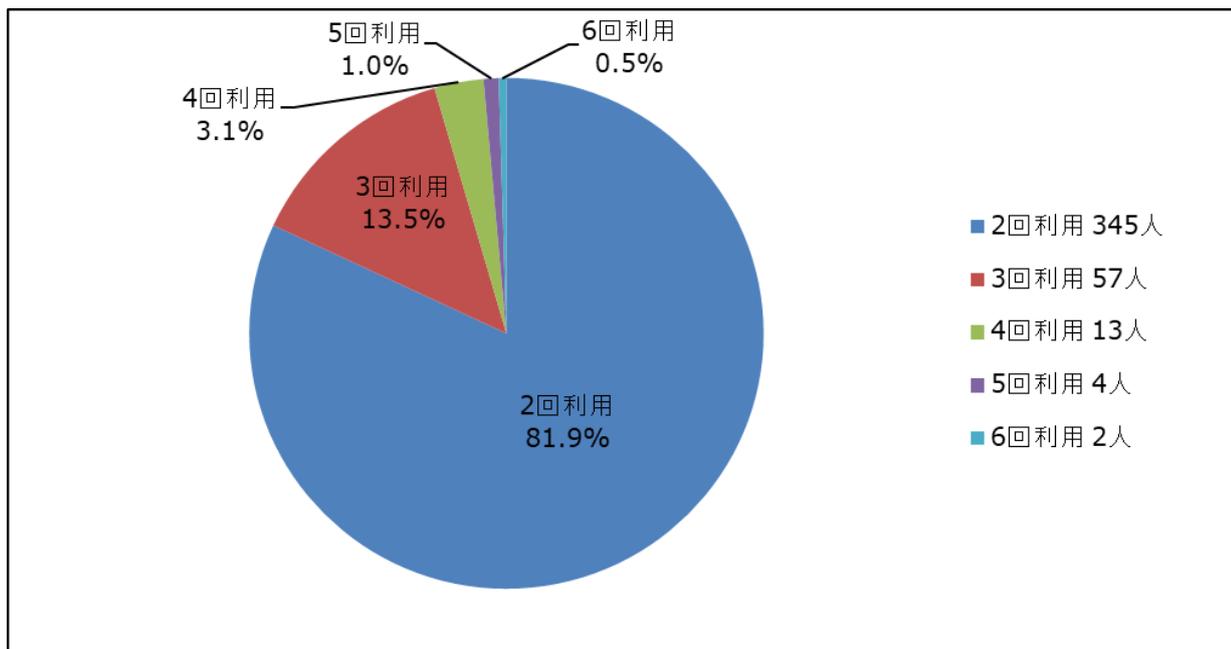
図 4-2 高齢者救急搬送の推移



※高齢者搬送者数は延べ人数

※高齢化率は各年9月末の統計（北見市、置戸町、訓子府町から抜粋）

図 4-3 高齢者の複数回利用数



5、傷病程度別搬送人員状況

令和2年中の搬送人員5,100人のうち、中等症、重症、死亡の傷病者の割合は57.7%、入院加療を必要としない軽症の傷病者の割合は42.3%となっている。（図5-1、表5-1）

図5-1 傷病程度別内訳

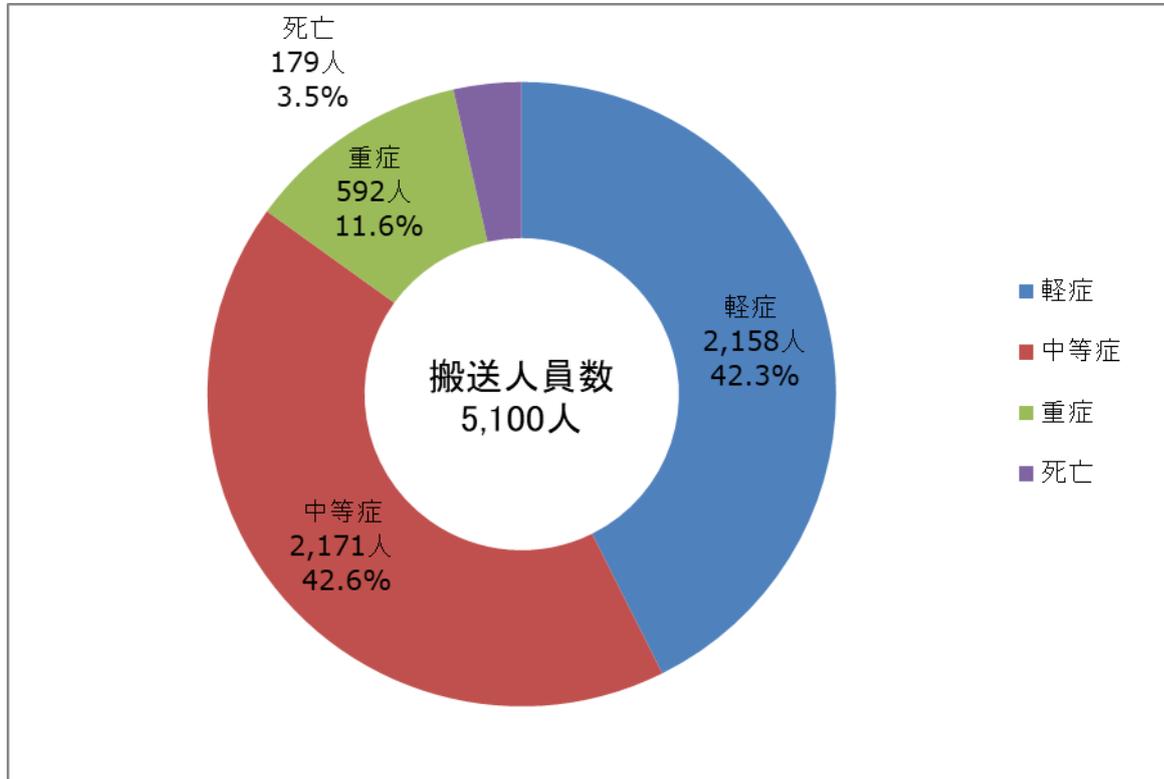


表5-1 傷病程度分類

事故種別 程度	火	自	水	交	労	運	一	加	自	急	転	そ	計	割
	災	然	難	通	働	動	般	害	損	病	院	の		
死	0	0	1	5	1	0	6	0	7	155	4	0	179	3.5%
重	3	0	1	13	3	0	52	1	6	403	110	0	592	11.6%
中	5	0	0	41	32	7	272	1	28	1,423	362	0	2,171	42.6%
軽	4	0	0	183	38	21	371	10	18	1,428	84	1	2,158	42.3%
そ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
の														
他														
計	12	0	2	242	74	28	701	12	59	3,409	560	1	5,100	100.0%

※死亡とは、初診時において死亡が確認されたもの

※重症とは、傷病程度が3週間の入院加療を必要とするもの

※中等症とは、傷病程度が重症又は軽症以外のもの

※軽症とは、傷病程度が入院加療を必要としないもの

※その他とは、医師の診断がないもの及び傷病程度が判明しないもの、並びにその他の場所に搬送したもの

6、急病に係る疾病分類項目別搬送人員状況

令和2年中の急病の搬送人員内訳を世界保健機構（WHO）の国際疾病分類の項目別で見ると、脳疾患 361 人（10.6%）、心疾患 387 人（11.3%）、消化器系 401 人（11.8%）、呼吸器系 371 人（10.9%）となっている。（図 6-1）

また、脳疾患では脳梗塞、心疾患では心不全が多く傷病程度はいずれも中等症が最多となっている。（図 6-2）

図 6-1 急病患者疾病内訳

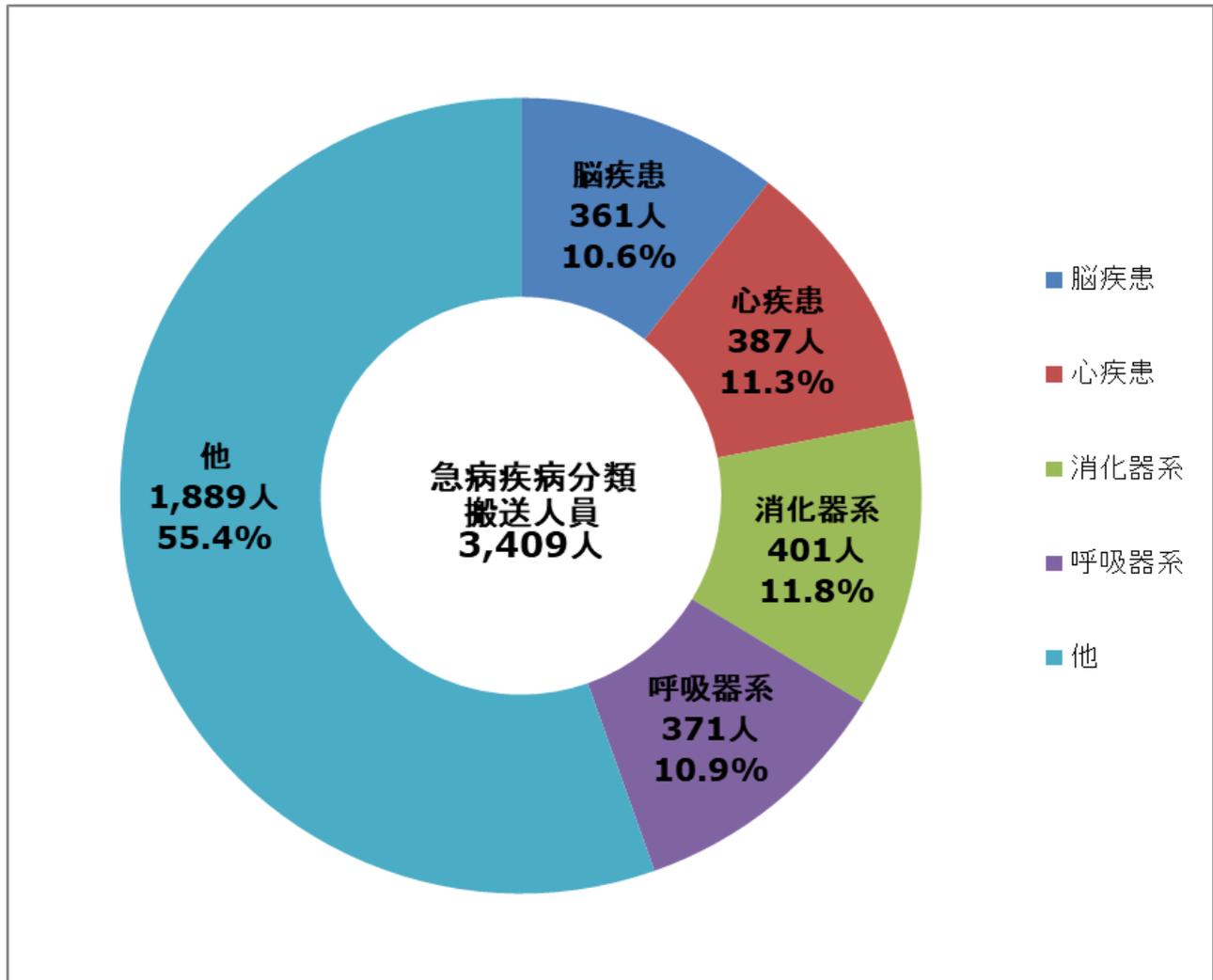
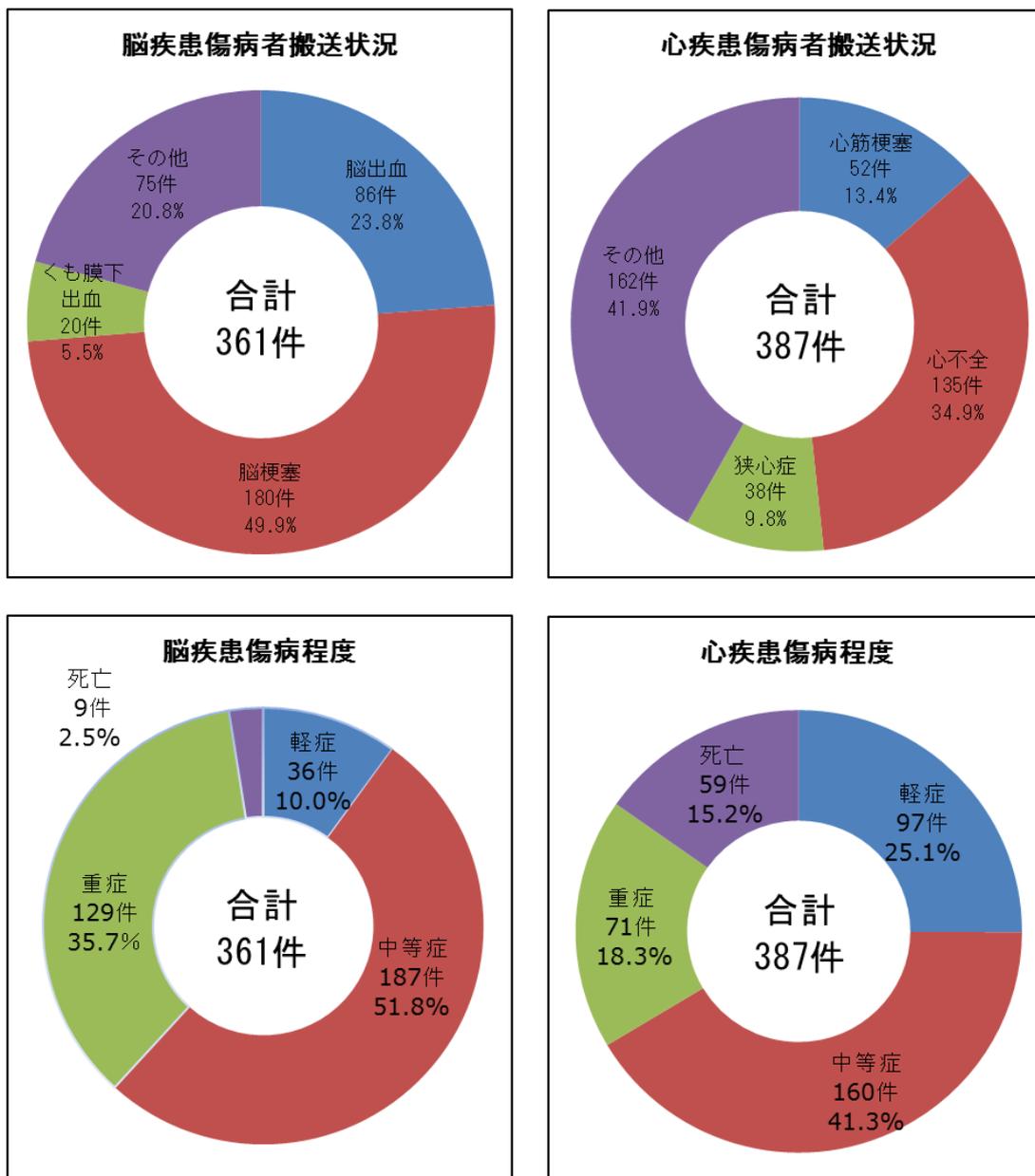


図 6-2 脳疾患及び心疾患搬送者の疾患名、傷病程度



7、急病に係る疾病分類項目別重症割合

令和2年中の急病の疾病分類項目別に重症以上の割合をみると、脳疾患（38.2%）、心疾患（33.5%）、新生物（33.3%）の順となっている。（表7-1）

表 7-1 疾病分類項目別重症割合

種別 項目	脳疾患	心疾患	消化器系	呼吸器系	精神系	感覚系	泌尿器系	新生物	その他	症状・徴候 診断名 不明確	計
搬送人員	361	387	401	371	85	103	174	63	1,453	11	3,409
重症以上	138	130	44	84	2	4	15	21	116	4	558
割合	38.2%	33.5%	11.0%	22.6%	2.4%	3.9%	8.6%	33.3%	8.0%	36.4%	16.4%

8、医療機関別搬送人員の状況及び管外搬送状況

令和2年中の搬送人員 5,100 人のうち北見赤十字病院への搬送が 2,320 人（45.5%）で、約半数を占めている。（表 8-1）

救急車による管外搬送は、前年より 10 件増加している。地域別では、札幌市への搬送が 2 件増加、旭川市への搬送が 4 件減少、網走市への搬送が 8 件増加している。ヘリコプターによる農道空港からの航空機搬送は前年より 1 件減少、北見赤十字病院 HP からの搬送は前年より 6 件増加している。（図 8-1）

表 8-1 医療機関別搬送人員内訳

病院名	種別	急病		交通事故		一般負傷		転院搬送		それ以外		合計	
		人数	割合	前年度増減	人数	割合	前年度増減	人数	割合	前年度増減	人数	割合	前年度増減
北見赤十字病院	人数	1,438		93		263		428		98		2,320	
	割合	28.2%	△ 341	1.8%	△ 26	5.2%	△ 102	8.4%	△ 45	1.9%	△ 27	45.5%	△ 541
小林病院	人数	685		103		241		57		58		1,144	
	割合	13.4%	△ 78	2.0%	△ 1	4.7%	7	1.1%	26	1.1%	11	22.4%	△ 35
北星記念病院	人数	321		9		49		9		7		395	
	割合	6.3%	△ 23	0.2%	7	1.0%	19	0.2%	△ 3	0.1%	2	7.7%	2
道東の森総合病院	人数	476		25		83		3		13		600	
	割合	9.3%	90	0.5%	11	1.6%	27	0.1%	△ 4	0.3%	3	11.8%	127
道立北見病院	人数	50		0		0		20		0		70	
	割合	1.0%	5	0.0%	0	0.0%	0	0.4%	7	0.0%	0	1.4%	12
林-ツ勤医協北見病院	人数	146		1		9		2		0		158	
	割合	2.9%	7	0.0%	1	0.2%	9	0.0%	0	0.0%	0	3.1%	17
JA常呂厚生病院	人数	77		8		10		1		2		98	
	割合	1.5%	17	0.2%	2	0.2%	2	0.0%	1	0.0%	△ 2	1.9%	20
置戸赤十字病院	人数	81		0		7		0		3		91	
	割合	1.6%	4	0.0%	0	0.1%	3	0.0%	0	0.1%	0	1.8%	7
その他組合内医療機関	人数	128		3		37		5		5		178	
	割合	2.5%	△ 6	0.1%	△ 1	0.7%	7	0.1%	△ 1	0.1%	△ 4	3.5%	△ 5
組合外医療機関搬送	人数	7		0		2		35		2		46	
	割合	0.1%	0	0.0%	△ 1	0.0%	△ 1	0.7%	12	0.0%	2	0.9%	12
合計	人数	3,409		242		701		560		188		5,100	
	割合	66.8%	△ 325	4.7%	△ 8	13.7%	△ 29	11.1%	△ 7	3.7%	△ 15	100.0%	△ 384

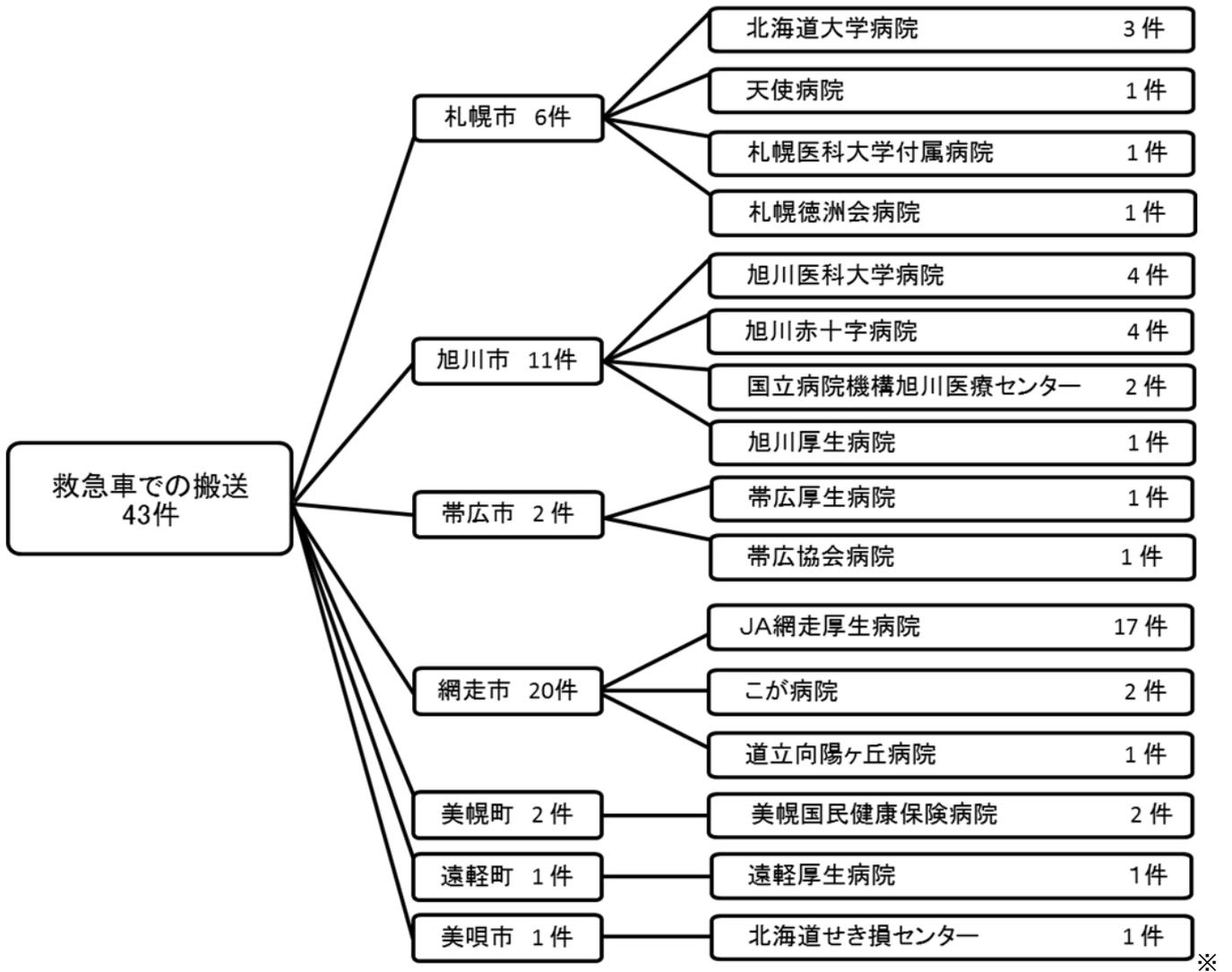
※搬送割合は全搬送人員に対する割合

※増減数は前年と比較しての増減

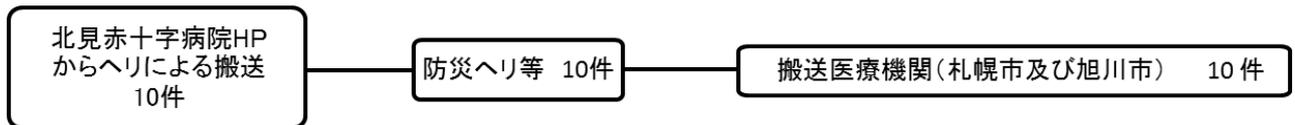
表 8-2 年別管外搬送状況（救急車・航空機）

	札幌市		旭川市		釧路市		帯広市		女満別空港発(航空機)	その他		
	救急車	航空機	救急車	航空機	救急車	航空機	救急車	航空機		救急車	航空機	日赤ヘリポート発
H28	0	0	6	0	0	0	0	0		26(内網走市以外5)	1(道北ヘリへの収容)	12
H29	2	2	4	0	0	0	3	0	2(札幌市)	31(内網走市以外8)		7
H30	8	3	10	4	0	0	0	0	3(札幌市)	20(内網走市以外2)		10
R1	4	2	15	3	0	0	0	0	2(札幌市、宮崎県)	14(内網走市以外2)	3(防災ヘリ)	4
R2	6	3	11	1	0	0	2	0	2(札幌市×2)	24(内網走市以外4)	1(名寄市、防災ヘリ)	10

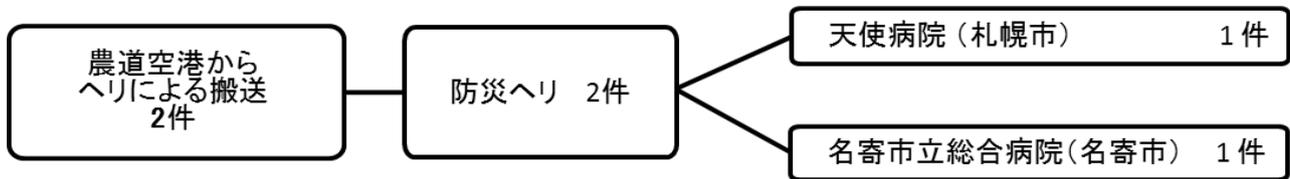
図 8-1 管外搬送状況内訳



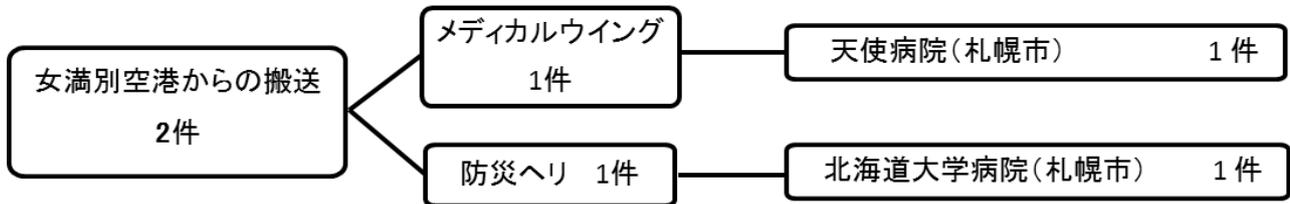
R1 年管外への陸路搬送 : 33 件



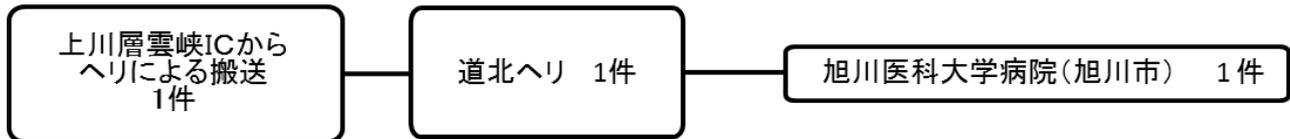
※R1 年北見赤十字病院 HP からのヘリ搬送 : 4 件



※R1 年農道空港からヘリ搬送：3 件



※R1 年女満別空港からメディカルウイング搬送：2 件



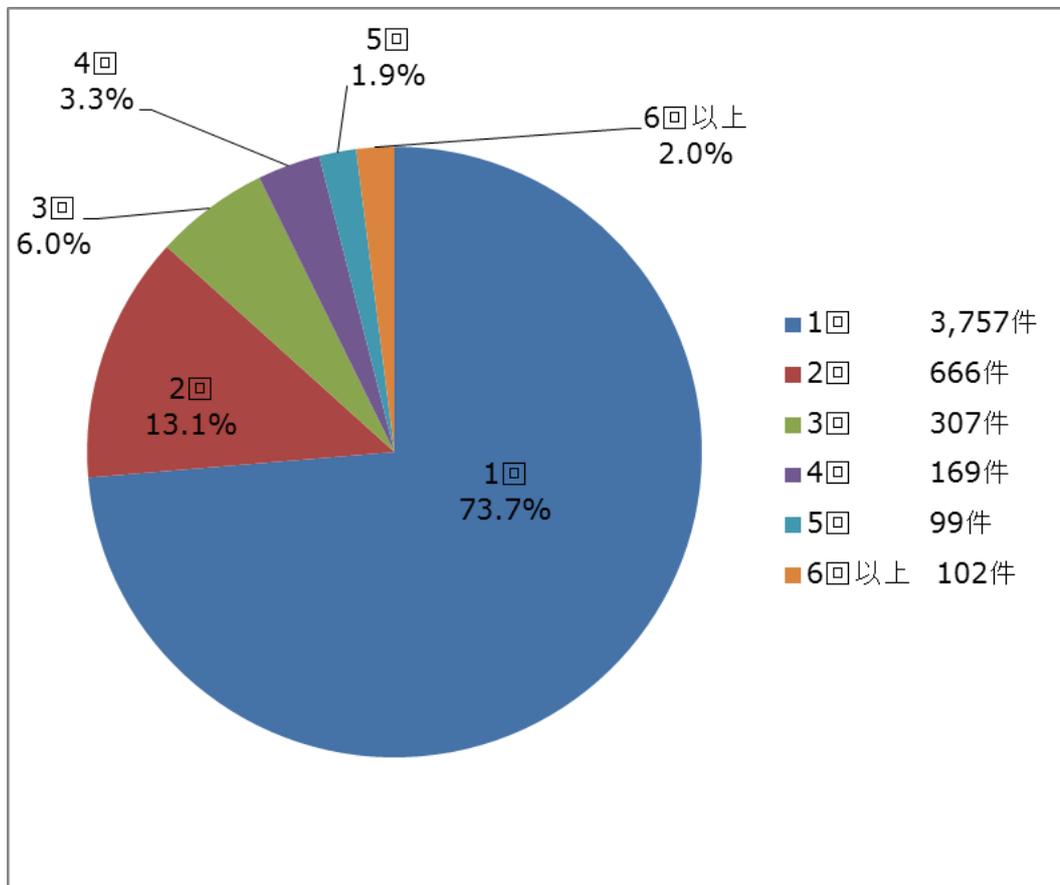
※R1 上川層雲峡 IC からヘリ搬送：0 件

9、病院問合せ回数

令和2年の傷病者受け入れに係る病院問合せについては、1回で決定したものは、3,757件(73.7%)であり、前年と比較すると4,347件(79.2%)であり減少となった。

(図9-1)

図9-1 病院問合せ回数



10、心肺停止傷病者搬送人員、社会復帰状況

令和2年中の心肺停止傷病者搬送数は174人であり前年と同数であった。(図10-1)
社会復帰者数は2人であった。(表10-1)

図10-1 心肺停止傷病者搬送数

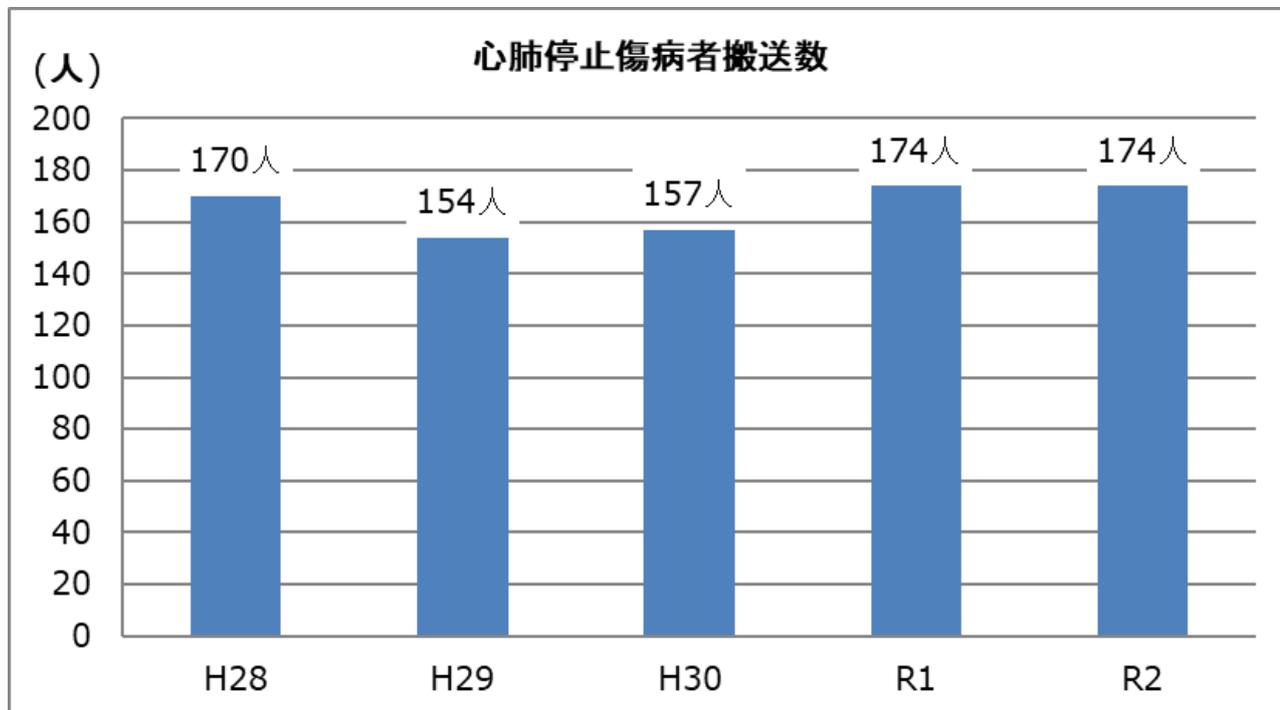


表10-1 心肺停止傷病者社会復帰率(過去5年間)

項目	年				
	H28	H29	H30	R1	R2
心肺停止傷病者搬送数	170	154	157	174	174
社会復帰者数	5	2	10	2	2
社会復帰率	2.9%	1.3%	6.4%	1.1%	1.1%

※社会復帰者とは、脳機能カテゴリー(CPC)及び全身機能カテゴリー(OPC)が2以下(機能良好もしくは中程度障害)のものをいう。

機能良好とは、普段と同様の生活が可能な状態であり、障害は残っていても軽度の神経症状あるいは精神障害までのことをいう。

中程度障害とは、保護されたパートタイムの仕事が可能であり、介助なしに日常生活が可能な状態のことをいう。

※1ヶ月生存者は、10名(5.7%)である。

※令和2年の社会復帰率については、一か月後の調査により確定値となるため速報値として報告する。

11、二次・三次医療機関への搬送状況

令和2年中の三次医療機関への前年搬送人員は2,861人であり541人減少している。また、二次医療機関への前年搬送人員は2,348人で、138人の減少となっている。

CPA（心肺停止傷病者）の搬送は174人中136人、78.2%が三次医療機関へ搬送されている。（表11-1）

表 11-1 二次・三次医療機関搬送状況

項目		事故種別									計
		急病	一般	交通	労災	自損	加害	運動	転院	その他 (火災等)	
北見地区	搬送人員	3,409	701	242	74	59	12	28	560	15	5,100
	CPA搬送人員	149	10	4	1	8	0	0	1	1	174
三次医療機関	搬送人員	1,438	263	93	28	47	4	7	428	12	2,320
	搬送割合	42.2%	37.5%	38.4%	37.8%	79.7%	33.3%	25.0%	76.4%	80.0%	45.5%
	CPA搬送人員	114	8	4	1	7	0	0	1	1	136
二次医療機関	搬送人員	1,786	399	146	45	8	8	19	72	3	2,486
	搬送割合	52.4%	56.9%	60.3%	60.8%	13.6%	66.7%	67.9%	12.9%	20.0%	48.7%
	CPA搬送人員	33	2	0	0	1	0	0	0	0	36

※CPA 搬送人員…一次医療機関搬送2人

12、特定行為等の実施状況

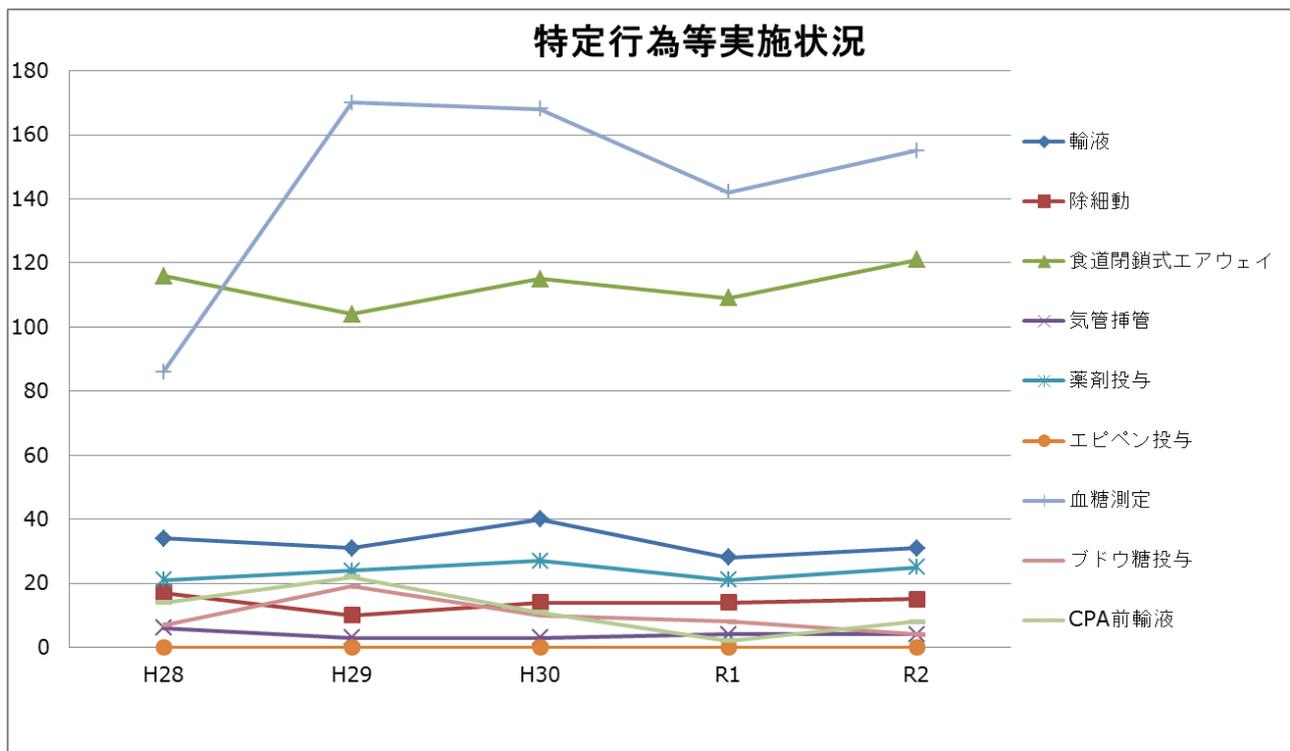
特定行為等の実施状況について、心肺機能停止傷病者搬送事案(呼吸停止のみを含む)174件のうち食道閉鎖式エアウェイが121件(69.5%)、気管挿管4件(2.3%)、静脈路確保31件(17.8%)、薬剤投与24件(13.8%)となっている。

平成27年から可能となったブドウ糖投与は低血糖判定31件のうち4件、心肺停止前重症傷病者に対する輸液8件を実施した。(表12-1、図12-1)

表12-1 特定行為等実施状況(過去5年間)

項目 年	輸液	除細動	食道閉鎖式 エアウェイ	気管挿管	薬剤投与	エピペン 投与	血糖測定	ブドウ糖 投与	CPA前 輸液
H28	34	17	116	6	21	0	86	7	14
H29	31	10	104	3	24	0	170	19	22
H30	40	14	115	3	27	0	168	10	11
R1	28	14	109	4	21	0	142	8	2
R2	31	15	121	4	24	0	155	4	8

図12-1 特定行為等実施状況



13、救命講習実施状況

令和2年の救命講習実施状況は新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑みながらの実施となり、令和元年と比較すると計86回、2,188人減少となった

コロナ禍における新たな取り組みとしてオンライン救命講習（短時間講習に含む）を導入し計10回、106名に対し講習を行った。（表13-1）

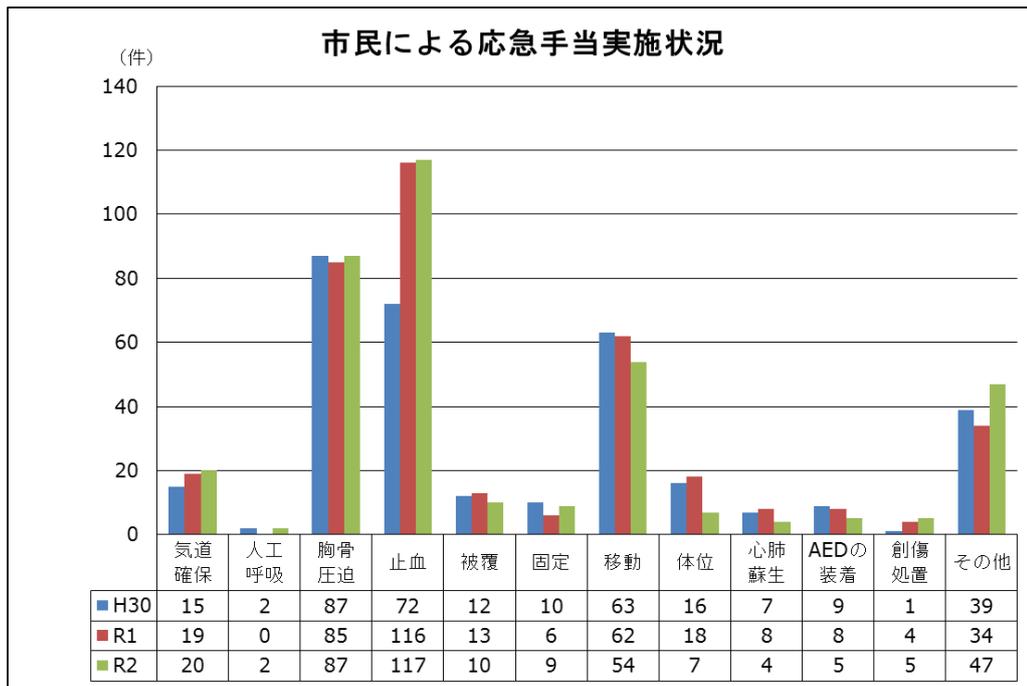
表13-1 応急手当普及啓発講習会実施状況（過去3年間）

年	講習(種類)		回数(回)	人数(人)	
平成30年	普通救命講習		普通Ⅰ	89	1,677
			普通Ⅲ(小児)	0	0
	一般講習	応急手当講習	学校関係	1	50
			職域関係	18	60
			一般	12	359
	一般講習	短時間講習	学校関係	33	966
			職域関係	18	363
			一般	7	139
	上級救命講習			0	0
	普及員講習			1	2
	指導員講習			0	0
	患者等搬送事業者			0	0
計			179	3,616	
令和1年	普通救命講習		普通Ⅰ	72	1,637
			普通Ⅲ(小児)	0	0
	一般講習	応急手当講習	学校関係	3	154
			職域関係	22	470
			一般	3	73
	一般講習	短時間講習	学校関係	35	683
			職域関係	14	423
			一般	1	75
	上級救命講習			1	24
	普及員講習			2	24
	指導員講習			1	8
	患者等搬送事業者			0	0
計			154	3,571	
令和2年	普通救命講習		普通Ⅰ	38	732
			普通Ⅲ(小児)	0	0
	一般講習	応急手当講習	学校関係	0	0
			職域関係	0	0
			一般	0	0
	一般講習	短時間講習	学校関係	8	235
			職域関係	12	196
			一般	8	205
	上級救命講習			1	8
	普及員講習			1	7
	指導員講習			0	0
	患者等搬送事業者			0	0
計			68	1,383	
合計			401	8,570	

14、市民による応急手当実施状況

令和2年の市民による応急手当の実施状況は、止血の実施件数が117件と最も多く次いで胸骨圧迫87件、移動54件の順となっている。また、市民によるAED装着は5件であり、5件のうち3件で電気ショックが行なわれていた。(図14-1) 119番通報時に指令員が実施する口頭指導での応急手当の実施状況は、止血処置が最多で36.5%の実施率となっている。(図14-2)

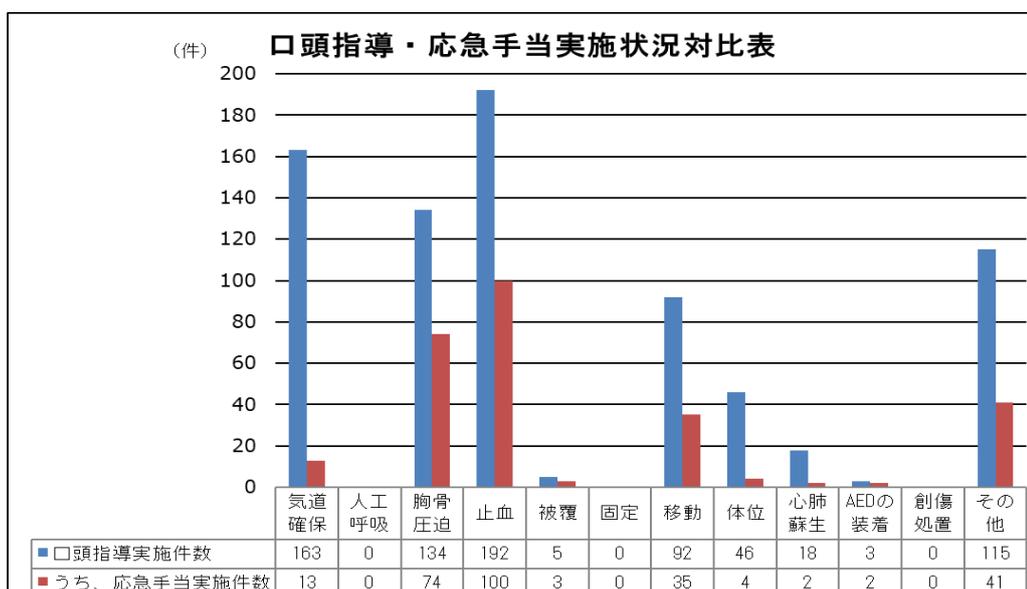
図14-1 市民による応急手当実施状況



※心肺蘇生は、人工呼吸と胸骨圧迫の両方を実施したもの。

※その他は、上記以外の冷却などの処置。

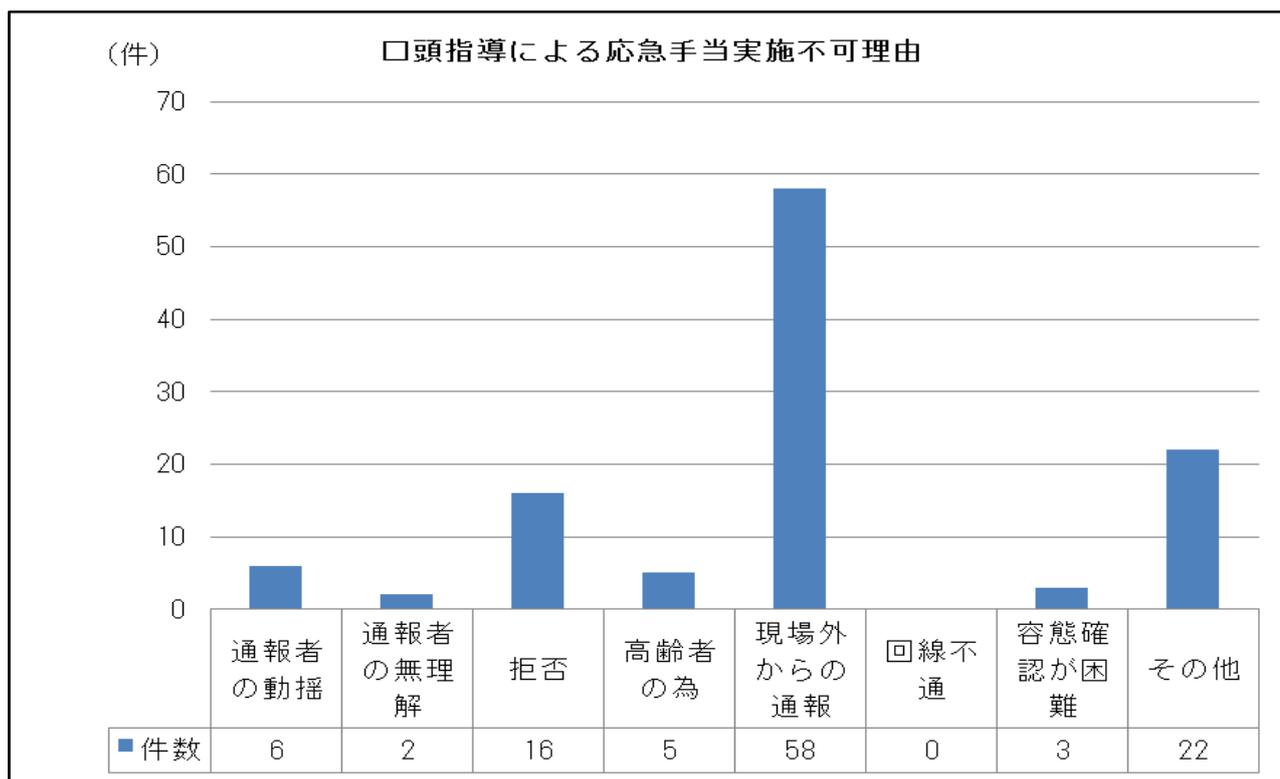
図14-2 口頭指導・応急手当実施状況対比表



15、口頭指導による応急手当実施不可理由

口頭指導を行なったが応急手当を実施できなかった理由として、現場外からの通報の58件が最も多く、拒否16件、通報者の動揺6件と続いている。その他の内訳としては「看護師同乗、続報未入電、右手が義手、傷病者から離れている、症状回復、電話を切られた、応急処置資機材なし」等がある。(図15-1)

図15-1 口頭指導による応急手当実施不可理由



※すべての救急事案で聴取することは不可能なため、聴取可能だった事案のみ統計に反映している。

16、周産期救急の出動状況

令和2年の周産期救急は30件(0.5%)で、病院前分娩は0件であった。周産期救急における搬送状況は転院搬送が30件(86.6%)となっている。(表16-1、表16-5)

表 16-1 救急出動件数と周産期救急傷病者搬送件数

	救急出動件数	周産期救急傷病者搬送件数	事故種別別出動状況	
			母体	新生児
H29	5,662 件	43 件	母体 転院搬送18、急病8	新生児 転院搬送17
H30	5,848 件	28 件	母体 転院搬送13、急病2、交通1	新生児 転院搬送12
R1	6,030 件	26 件	母体 転院搬送14、急病2、交通1、自損1	新生児 転院搬送8
R2	5,496 件	30 件	母体 転院搬送15、急病3、交通1	新生児 転院搬送11

表 16-2 周産期救急の搬送先医療機関

	H29	H30	R1	R2
三次医療機関	36 件	26 件	22件	25件
二次医療機関	4 件	1 件	1 件	0 件
管外医療機関	3 件	1 件	3 件	5 件

表 16-3 周産期救急の傷病分類

傷病名	H29	H30	R1	R2
切迫早産	12件	4件	5件	6件
切迫流産	0件	0件	1件	0件
常位胎盤早期剥離	0件	2件	0件	1件
異所性妊娠（子宮外妊娠）	0件	1件	1件	2件
破水	4件	5件	4件	2件
妊娠高血圧症候群	1件	0件	0件	2件
分娩（及びそれに関係するもの含む）	3件	0件	3件	2件
その他 ※1	5件	3件	2件	2件
周産期以外の疾患 ※2※3	1件	1件	2件	2件

※1 その他（内訳）：子宮頸管無力症 2

※2 傷病者は妊娠中であるが、その他の疾患により救急搬送されたもの。

※3 周産期以外の疾患（内訳）：右付属器腫瘍茎捻転1・交通1

表 16-4 新生児救急の傷病分類

傷病名	H29	H30	R1	R2
新生児仮死	2件	3件	0件	0件
一過性多呼吸（新生児呼吸障害含む）	3件	0件	1件	0件
子宮内感染症	1件	2件	0件	1件
新生児低血糖症	1件	0件	0件	3件
心室中隔欠損	1件	0件	0件	0件
新生児気胸	1件	0件	0件	1件
新生児黄疸	1件	1件	0件	0件
低出生体重児	2件	1件	1件	1件
その他疾患	5件	5件	6件	5件

※その他疾患：消化管閉塞・ヒルシュスプリング病・新生児貧血・鎖肛2

表 16-5 自宅分娩及び車中分娩件数

H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
1件	2件	1件	1件	0件	1件	0件	2件	1件	0件	0件	0件

17、ドクターカー出動状況

平成25年5月より北見赤十字病院の保有する周産期救急ドクターカーを北見地区消防組合が協定により運行している。病院前周産期救急診療及び重度傷病者に対する救急診療等が対象となり、医師・看護師及び救急救命士が乗車し早期に診療を開始することで救命率向上を図ることを目的としている。

令和2年中の出動件数は22件、内訳は施設間搬送（転院搬送）に係るものが9割を超え、医師搬送が2件であった。